

■医療施設の従事者数 増加の顕著な職種■

		平成17年	平成14年	増加数
順位	従事者総数	2631779	2518340	113439
1	事務職員	363279	343441	19838
2	歯科衛生士	76829	64831	11998
3	介護福祉士	36544	25630	10913
4	理学療法士	32979	25486	7493
5	作業療法士	18382	12962	5421
6	歯科業務補助者	87034	82525	4508
7	診療放射線技師	43162	39587	3575
8	精神保健福祉士	6436	3604	2832
9	臨床工学技士	13152	10321	2831
10	臨床検査技師	57007	54475	2531
11	言語聴覚士	5796	3777	2019
12	薬剤師	47558	46015	1543
13	社会福祉士	4185	2737	1448
14	医師・歯科医師	392114	390784	1330
	(再掲)常勤	328784	333139	-4355
	(再掲)非常勤	63330	57645	5686
参考	看護師・准看護師	927532	940983	-13451
	(再掲)看護師	644113	614128	29984
	(再掲)准看護師	283419	326855	-43436

単位:人(常勤換算)

(厚生労働省平成17年医療施設調査の資料に基づき作表)

量から質の時代へ 医療施設事務職員

増加数トップは事務職員。全医療施設(病院、診療所)の従事者数の変化を免許の種類等ごとくみるとこうなる。医療従事者数は総じて増加しているが、実態は職種によってまちまち。医療を取り巻く社会経済環境が年々厳しさを増すなか、医療施設はどのような経営戦略で事務職員を雇用しようとしているのか。保健医療経営の今後を展望する。

厚生労働省は本年、医療施設静態調査を実施する。全医療施設の詳細な実態を把握する目的で3年おきに行われるもので前回は平成17年実施。前々回(平成14年)調査と比較すると3年間の変化がわかる。

平成17年10月1日現在の医療施設の従事者総数は263万人で平成14年より11万人の増。従事者の3分の1を占める看護師・准看護師については看護師が3万人増えたのに対し准看護師が4万人減ったの合わせて1万人の減。医師・歯科医師は、常勤が大きく減っているが、非常勤の穴埋めにより1千人の増。歯科

衛生士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士の増が顕著であるが、事務職員は断トツの2万人の増だ。

医療施設の運営の実際は近年めまぐるしく変化しており、本年の調査結果も同様の傾向を示すとは限らない。医療崩壊、病院倒産の時代を迎え、医療施設経営にはより高度な事務能力が要求される。事務職員を充実させる方向性は変わらな

ことが求められる。

36万人の事務職員は、毎年、数万人規模の世代交代を迎える。事務職員の採用が縁故者間で行われて良しとされる時代は終焉した。保健医療の教養と優れた経営素養を併せ持つ人材の雇用により、技術職員が専門性を存分に発揮できる職場環境を形成することが重要だ。

地域の保健医療施策に携わる職員の資質向上も同様に重要だ。地域保健医療を効果的に展開するには保健医療の教養に立脚した地域経営のノウハウが要る。時代の要請に応える高等教育機関が必要だ。